

出穂はやや早い見込み！

生育診断に基づいて遅れず・適量の穂肥を！

●出穂期予測（水田農業研究所、出穂期予測 6月29日現在）

- 出穂期はやや早まる予想です（表1）。
- 移植時期や天候により予想出穂期は前後するため、生育診断を行い、圃場の生育に合わせて、遅れずに穂肥を行いましょう。

表1 幼穂による出穂期予想(水田農業研究所(鶴岡市藤島) 6月29日調査)

品種名	熟期	平年出穂期	予想出穂期	平年差
あきたこまち	早生晩	7月27日	7月27日	±0日
ひとめぼれ	中生晩	8月1日	7月31日	-1日
はえぬき	中生晩	8月1日	7月31日	-1日
雪若丸	中生晩	8月2日	7月31日	-2日

●品種ごとの穂肥診断の方法

1. はえぬき

- 出穂25日前（平年7/10頃）、窒素成分1.5~2.0kg/10aを基本とする。
- 7/10頃（10.4葉期）に生育診断を行い、穂肥の量と時期を決定する（図1）。
- 茎数700本/m²以上、又は葉色（SPAD値）40以上であれば生育過剰。いずれかの場合は、穂肥量を窒素成分1.0kg/10aに減らし、両方に該当している場合は、穂肥を行わない。

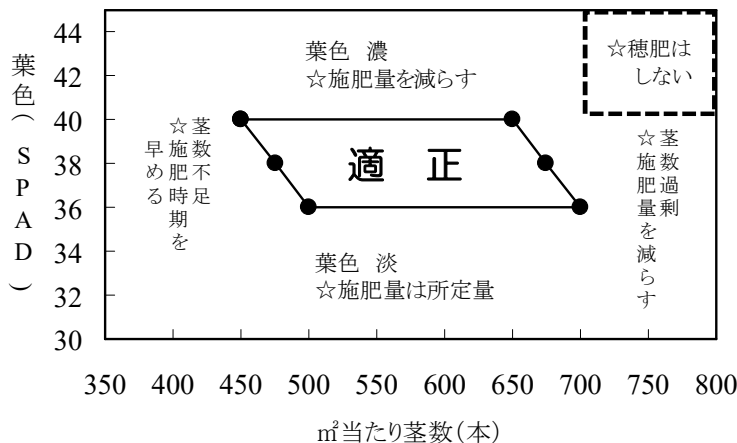


図1 はえぬきの7/10の茎数・葉色による診断と穂肥対応

表2 茎数・葉色早見表

m ² 当たり 茎数(本)	株当たり茎数(本)	
	60株植/坪	70株植/坪
700本/m ²	38	33
450本/m ²	25	21

葉色(SPAD)	葉色(葉色板)
40.0	5.0
36.0	4.6

2. つや姫

- 穂肥は、出穂 30 日前（平年 7/10 頃）が基本。
- 7/10 頃に生育診断を行い、生育に合わせて穂肥を実施！（図 2）。

- ① 茎数 600 本/m²以下かつ葉色 39 以下
⇒出穂 30 日前に窒素成分 1.5kg/10a を施用
- ② 茎数 600～650 本/m²、又は、葉色 39～41
⇒窒素成分 1.0kg/10a 以下に減肥
- ③ 茎数 650 本/m²以上、又は、葉色 41 以上
⇒出穂前 25 日頃まで葉色が低下したら、
窒素成分 1.0kg/10a 以下に減肥
※葉色が低下しない場合は、穂肥を行わない

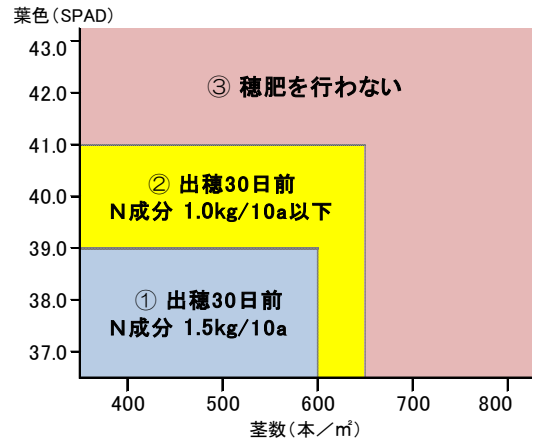


図2 つや姫の 7/10 の茎数・葉色による診断と穂肥対応

3. ひとめぼれ

- 穂肥の時期と量は、地力に応じて調整する（表 3）。
- 出穂 20 日前（7/14 頃）の生育を確認し、穂肥診断を行う（表 4）。
- 出穂 30～35 日前（6/29～7/4）の草丈+30cm、出穂 20～25 日前（平年 7/9～14）の草丈+15～20cm が稈長の目安となる。稈長が 82cm 以上で倒伏程度が高まるので、これを目安として対応する。

表 3 ひとめぼれの基本的な穂肥体系
（表中の数字は窒素施肥量（kgN/10a））

	幼穂形成期 (-20 日)	穂孕期 (-10 日)
地力高	1.0～1.5	—
地力中	1.0～1.5	0.5

表 4 ひとめぼれの 7/14 頃（出穂 20 日前）の倒伏診断と穂肥対応

7/14 頃の生育		穂肥診断
草丈	葉色 (SPAD)	
66cm 未満	40 未満	基本どおりとする
	40 以上	葉色が低下した後に穂肥する
66cm 以上	40 未満	減肥する
	40 以上	穂肥を行わない

4. コシヒカリ

- 穂肥の時期と量は、地力に応じて行う（表 5）。
- 7/20 頃（11.5 葉期）に生育を確認し、穂肥診断を行う（表 6）。
- 茎数と葉色から倒伏が懸念される場合は減肥する。減肥で対策が困難な場合は倒伏軽減剤（※特裁では使えない）の使用を検討する（表 6）。

表 5 コシヒカリの基本的な穂肥体系(kgN/10a)

	幼穂形成期 (-18～15 日)	穂孕期 (-10 日)
地力高	1.0～1.5	—
地力中	1.0～1.5	(0.5)

表 6 コシヒカリの 7/20 頃の草丈と葉色による倒伏診断と穂肥対応

草丈 (cm)	葉色 (SPAD)	草丈×葉色	窒素施肥量 (kgN/10a)
71	33	2300 以下	1.0～1.5
72～75	34～37	2400～2700	0～1.0
76	38	2800 以上	倒伏軽減剤使用

熱中症予防強化月間

定期的に水分と休憩を取りましょう

- 作業は涼しい時間帯に
- 定期的に休憩を

- 塩分と水分をこまめに補給
- 作業は涼しい服装で

